

令和4年度 自立支援・重度化防止施策の目標・評価

タイトル	生活支援体制整備事業
課題	
生活支援コーディネーターを配置し、生活支援体制整備事業を実施しているがまだ認知率が低く、住民と連携を取りながらの事業遂行が出来ていない。事業内容や重度化防止のための意識を住民と共有する必要がある。	
課題解決に向けた取り組み	
・ふれあいサロンを開催する。 ・協議体の開催	
目標	
・自治体等に頼り切りになるのではなく、「住民自身の手で高齢者になっても自分らしい暮らしを続けられる地域を創設する」という意識の構築。 ・住民主体のサービスの創出	
事業実績（令和4年度実施）	
ふれあいサロン 開催数：1回 協議体 開催数：0回 意見交換会 開催数：1回	
実績評価（令和4年度実施）	
自己評価 【×】 コロナや冬季間の悪天候もあり、ふれあいサロンは思うように開催できない状態であった。協議体会議も開催できない状況となり、生活支援体制整備事業は完全に後退していている。 そんな中で有志を集めて大間町地域づくりについての意見交換会を開催、CLCを迎えて講義を行った。参加者から様々な意見が出て、次へと期待できる内容であったが、CLC側の日程が都合つかず、それっきりとなっている。 CLCがいなくても交歓会や座談会を開催できるよう、生活支援コーディネーターのスキルアップが必要である。	